序　文

佐藤　紀

2002年12月 9 日付けの雑誌TIME（アジア版）は，Asia's New Epidemicと題した特集を組み，近年，東アジア全域で糖尿病が爆発的に増加していることを報じている。わが国の厚生労働省による2002年度糖尿病実態調査報告では，「糖尿病が強く疑われる人」は全体の9.0%で，「糖尿病の可能性を否定できない人」は全体の10.6%であった。国民の約１割が糖尿病の疑いとされるわけである。この結果に2002年10月１日の推計人口を乗じて推計したところ，糖尿病と強く疑われる人は約740万人で，糖尿病の可能性を否定できない人を合わせると約1,620万人となった。一方，糖尿病の合併症としては，未治療のものも合わせると，神経障害が18.3%，網膜症が13.1%，腎症が18.3%に認められ，足壊疽の頻度は1.6%だった[1)]。足壊疽の頻度はこのようにそれほど高くはないが，全体数の多さから，患者の実数はかなりの数に上ると考えられる。

糖尿病患者における足壊死の原因はneuropathyに起因するもの，併存する動脈硬化症によるもの，また両者の合併するものに分けられる。糖尿病患者にみられる閉塞性動脈硬化症は下腿に病変が起こりやすいという特徴があり，以前は血行再建適応外とされることもあったが，多くの場合，足関節部の動脈が開存していることが知られ，血行再建の適応となるものが増えてきている。

本ワークショップに，愛知県立循環器呼吸器病センター（旧 愛知県立尾張病院）からは，閉塞性動脈硬化症合併足壊死に対する血行再建の報告が寄せられている。この施設では足部壊死性病変を持つ糖尿病患者の64%に閉塞性動脈硬化症が合併していたと報告されている。血行再建術の成績は糖尿病のあるなしにかかわらず同等であったと述べられているが，今回提示された症例の中には透析患者はなく，慢性腎不全および慢性透析の血行再建成績に及ぼす影響に関しての報告を待ちたい。

旭川医科大学からは，同様に糖尿病合併閉塞性動脈硬化症について多くの経験に基づく報告が寄せられている。積極的な血行再建により，大切断の率は驚異的に低い。糖尿病患者では常に感染が問題となる。近年，消毒薬とガーゼ被覆という旧来の創傷処置に反省が行われ，さまざまな創傷被覆材やvacuum-assisted closure（VAC）などの報告が多くみられるが，この施設では早期の切開排膿とデブリドマンに加え，大量の水による洗浄とVACを行っていると報告されている。

岡山大学からはウジムシを使用した壊死巣のデブリドマンというユニークな報告が寄せられている。わが国では現在までほとんど報告のなかった治療法であり，大変興味の持たれるところである。学会場で示された治癒過程の写真は驚異的であり，また早期に疼痛が消失するとされることも魅力的である。さらなる研究報告を待ちたい。

1）http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/03/s0318-15.html

埼玉医科大学総合医療センター　血管外科